

参考1

1 災害の始まり

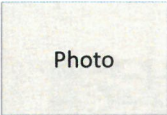


黄色: 前回委員会から追加した資料

1-1 事故前の暮らし





事故前の原子力発電所周辺の暮らしはどのようなものだったのか? 祭りや行事、学校生活、商店の賑わい、地元の経済を支えていた各種産業など、日常を形作っていたものごとを記録や証言を通し、描き出す。



No.	展示資料候補	資料名称	資料情報 ※展示キャプションについては別途精査	収集場所	所有者 (展示可否等確認先)	収集状況
・学校生活に関する実物資料						
1		・学習記録CDと 絵手紙	・被災前に子どもが過ごしていた学校生活を示す資料。被災前は子どもが生き生きと暮らすことができる地域であったことが分かる。	〇〇〇〇	〇〇〇	〇
2		・手提げ袋		〇〇〇〇	〇〇〇	〇
3		・野球帽	・子どもが、登下校の使用目的以外にも、遊びや課外活動など野外でのびのびと活動することができた被災前の地域を示す資料の1つ。	〇〇〇〇	〇〇〇	〇
4		・鍵盤ハーモニカ	・小学生が音楽授業で必ず習い、使う学習楽器。全国の普及率も高く小学校生活を象徴する学習器具資料。	〇〇〇	〇〇	〇
5	Photo Photo	・学校の名札(〇〇〇〇〇〇〇)	・被災前には子どもたちがおり、それぞれの学校生活を送っていたことを示す。同時に学校生活が壊れたことも合わせて示す。	〇〇〇	〇〇	〇
6		・小学生絵かいた(カード)	・小学生向けに浜通りの産業を紹介するカード。被災前の農業、漁業、工業についての絵柄が見える。			〇
7	Photo Photo Photo	・賞状3種	・部活動やPTAレクリエーションで入賞した時の賞状。被災前の学校生活や活発な課外活動を示す資料。被災前の地域の記憶とも言える。	富岡町 楢葉町	富岡高校/楢葉北小	〇
・地域の(生活)伝統(行事、祭り)を伝える実物資料						
8		・だるま市のダルマ	・双葉町の「だるま市」は、江戸時代から続く双葉地区の正月の伝統行事。縁起物のダルマは今年一年の家内安全や豊作を祈る飾り物として持ち帰り家に飾る、地域の伝統行事が分かる資料。	双葉町	双葉町	〇

No.	展示資料候補	資料名称	資料情報 ※展示キャプションについては別途精査	収集場所	所有者 (展示可否等確認先)	収集状況
9		・船名や屋号の焼印 (○○○○○○○)	・地域産業である漁業の象徴となる船舶・用具に記す焼印。○○○○○漁港は毎年1月2日、恒例の「出初式」が大漁旗をなびかせた漁船により行われていた。	○○○	○○	○
10		・漁船の浮き具 (○○○)	・○○漁港を母港とする漁船の浮き具。	○○○	○○	○
11		・大堀相馬焼「走り駒」	・双葉郡浪江町で生産される江戸時代から続く焼物。相馬藩の保護・奨励のもとで生産、明治維新後、窯元が減少するが、その後も20数戸の窯元が伝統を守り続けている。震災後、二本松に一時移転。皿の2012年は再開時の年号。	福島県	福島県	○

・原子力発電所の広報、地域との関係に関する実物資料

12		・原子力発電に関する広報ビデオ	・地域の小中学生が一度は訪れた福島県原子力センターのPRビデオ。電気発電の歴史と原子力発電の重要性や原子力発電の明暗について語られている。ほかには原子力防災に対する訓練の様子を伝えるビデオ記録も残っている。	大熊町 (旧原子力センター)	福島県	○
13		・東京電力提供スタンド	・地域住民が集う場所に設置されたニュース用掲示スタンド。地域に対する東京電力の貢献度向上と支援・地域協力への姿が伝わる資料。	大熊町 (県立大野病院1階)	福島県	○
14		・『原子力を考える日』体験学習の感想文	・地域生活に光をもたらした「発電所」に対する感想文をまとめた冊子。 「【体験学習で学んだこと】 発電所を作ったおかげで人口がふえて、車も買えるような大金持ちも現れて来たのですごいです。」	大熊町 (旧原子力センター)	福島県	○
15		・アトムふくしま(学習かばん)	・『原子力 知恵と理解ではぐくむ未来』という標語がプリントされている。津波で流され、伝承館近くで発見された。	○○○	○○○	○

No.	展示資料候補	資料名称	資料情報 ※展示キャプションについては別途精査	収集場所	所有者 (展示可否等確認先)	収集状況
33		・原子力発電所の事故発生を伝える新聞 (3月15日福島民報社)	・水素爆発がさらに引き続いて起きたことを知らせる福島県の地元紙。	—	個人	○
・原子力発電所事故による(特有な)痕跡						
34		・県立大野病院に残された新聞	・県立大野病院のテーブル上に残されていた3月12日付けの朝刊。12日朝まで配達があったことが分かる。	大熊町	福島県	○
・原子力発電所事故に対応した当事者の記録						
35		・電源復旧用電源ケーブル)	第一原子力発電所が水素爆発の危機に見舞われていた頃、第二原子力発電所でも、原子炉が危機的状況に陥っていた。地震と津波により原子炉の冷却に必要な海水ポンプが水没し、それらの電源も失われてしまった。しかし、廃棄物処理建屋にある外部電源が唯一回線生きていたため、当時の第二原子力発電所所長はその電源と800メートル離れた冷却装置のある建屋をケーブルでつなぐ指示を出した。総延長9kmの両手に余る太く重いケーブルをつなぐ作業は、通常であれば機器を使っても1ヶ月かかる重労働。これを人力でたった1日で行った。ケーブルが無事繋がり、冷却機能が復旧したのはベント危機リミットの2時間前であった。	同等品(新品) 購入・展示	—	購入準備中
36		・1F給水支援に持ち出されたホース	・原子炉冷却のため、消防車が出動し、給水支援活動をした時のホース。	楢葉町	双葉消防本部	○
37		・車載消防警報機及び車載防災無線機とそのアンテナ	・原子炉冷却のため、出動した消防車の無線。この無線機をつうじて情報のやりとりが行われた。	楢葉町	双葉消防本部	○
38		・車載無線機(アナログ式)	・車載スピーカーを接続し1F状況を共有した際に使用したもの、14日「爆発！」の緊急無線を発・受信した機器	楢葉町	双葉消防本部	○



No.	展示資料候補	資料名称	資料情報 ※展示キャプションについては別途精査	収集場所	所有者 (展示可否等確認先)	収集状況
39		・携帯無線機(アナログ式)、個人線量計	・1F構内に入った双葉消防本部消防士が携帯していた無線機と個人線量計。	福島県	原安課	手続中
40		・1F2F構内の冷却支援活動からスクリーニング等に使われた消防本部車両(双葉14)		楳葉町	双葉消防本部	○
41		・1F2F構内の冷却支援活動からスクリーニング等に使われた消防本部車両(富岡2)	・3月11日以降、東電1F2Fの支援活動からスクリーニング等に使われた消防本部車両2台。1F2F支援活動後、隊員とともに無事帰還できた車両の内外装品。	楳葉町	双葉消防本部	○
42		・消防本部車両の赤色灯		楳葉町	双葉消防本部	○




1-4 災害対策本部の記録

かつて誰も経験したことのない事態に直面し、懸命に対応した人々の記録を、当時の映像や実際に使用されていた実物資料を通して、当時の緊迫感とともに伝える。



・国、県、市町村の対策の記録

43	Photo	・町長手書きの対策メモ(浪江町・暗中八策)	・当時の浪江町長が書き残した手書きの災害対応メモ。	浪江町	浪江町	○
44	Photo	・旧双葉町庁舎に残された災害対応時の模造紙	・災害対応の際、当時の双葉町庁舎内で使用された模造紙。内容は避難や原発事故の内容まで多岐に及ぶ。	双葉町	双葉町	○ 展示確認中
45		・各行政機関の災害記録(国・県・市町村、医療・警察・消防等)	・被災町村が作成した東日本大震災とそこからの復興などを記した記録誌。避難が長期に及ぶため、複数回作成したケースもある。	県内各市町村	県内各市町村	○
46		・原子力発電所の運転状況ボード(県原子力センター)	福島県原子力センターが福島第一、第二原発の稼働状況を把握するために用いていた。	大熊町 (旧原子力センター)	福島県	○

No.	展示資料候補	資料名称	資料情報 ※展示キャプションについては別途精査	収集場所	所有者 (展示可否等確認先)	収集状況
47	Photo	・3月11日1F/2F 状況推移書き出し記録(県原子力センター)	(通常業務) ・1973年6月、原子力対策駐在員事務所として発足。1974年4月に原子力センターとなる。1975年に新庁舎に移転。 ・主に福島第一・第二原発の周辺に放射線測定局を設置し、環境放射能の監視を担う。 ・施設内には、第一展示室と第二展示室が設けられており、地域住民及び県内外の人たちに原子力に関する知識の普及啓発を行い、原子力に関する理解の促進を図っていた。 (震災時の対応) ・原発事故直後に周辺の放射線測定の拠点。 ・3月12日深夜まで、オフサイトセンターでは停電が続いたため、現地対策本部は原子力センターを利用し、対応に当たった。	大熊町 (旧原子力センター)	福島県	○
48		・放射性ヨウ素測定結果ボード(県原子力センター2F)	・放射性ヨウ素の測定結果を時系列で把握するための記録ボード。	大熊町 (旧原子力センター)	福島県	○
49		・県防災ヘルメット(県原子力センター)	災害時の対応の際にも、県原子力センター職員等が身に付けていたヘルメット。	大熊町 (旧原子力センター)	福島県	○
50		・鉛の遮蔽版(県原子力センター)	・鉛が入った黄色の長方形をした板。複数枚並べて放射線の遮蔽を期待する。	大熊町 (旧原子力センター)	福島県	○

オフサイトセンター

51	Photo	・福島第一原子力発電所周辺図-1	・広域に展開する災害対応状況を把握し、さらには災害対応計画の作成に使ったと思われる大判の地図。	大熊町 (IBOFC)	内閣府	○
52	Photo	・福島第一原子力発電所周辺図-2		大熊町 (IBOFC)	内閣府	○

3月委員会用資料●実物資料リスト

No.	展示資料候補	資料名称	資料情報 ※展示キャプションについては別途精査	収集場所	所有者 (展示可否等確認先)	収集状況
53		・原子力災害時における優先対応事項	・今回の事故前に作成されていたマニュアル類。	大熊町 (IBOFC)	内閣府	○
54		・警戒段階における緊急事態応急対策(マニュアル書)		大熊町 (IBOFC)	内閣府	○
55		・住民安全班の机に残された備品	・実際の事故対応にあたってオフサイトセンターで使用された物品。	大熊町 (IBOFC)	内閣府	○
56		・当時の状況を記載したホワイトボード(OFC・広報班)	・原子力発電所事故以降の状況の推移を書きだした資料。錯綜する情報を逐次手書きで整理していた。	大熊町 (IBOFC)	内閣府	○ 条件付展示
57		・OFC防災資材セット	・オフサイトセンターで収集した個人用防災資材のセット。写真のものは2Lサイズ。	大熊町 (IBOFC)	内閣府	○
58		・OFC詰防災服(上) ・キャップ	・3月12日OFC担当(住民安全班席)が着用していた防災服	楢葉町	双葉消防本部	○
59		・OFC詰防災服(下)	※3月12日OFC担当者が着用していた防災服	楢葉町	双葉消防本部	○
福島海上保安部						
60		・潜水資器材一式	※3月11日震災直後より、帰還困難区域での潜水捜索活動で実際に使用していた潜水資器材一式	○○○○	○○○○○○○	○

No.	展示資料候補	資料名称	資料情報 ※展示キャプションについては別途精査	収集場所	所有者 (展示可否等確認先)	収集状況
-----	--------	------	----------------------------	------	-------------------	------

2 原子力発電所事故後の対応

2-1 避難の開始


避難開始当時を振り返る証言を通し、先が見えない状況で故郷を離れ、避難所を転々と移動しなければならなかった人々の想いを想像し、共感を深めてもらう。また、避難所で使われた品々の展示を通して、当時の避難生活の教訓を伝えると共に、現在の防災計画との比較等を通して、災害への日頃の重要さを訴求する。



No.	展示資料候補	資料名称	資料情報 ※展示キャプションについては別途精査	収集場所	所有者 (展示可否等確認先)	収集状況
-----	--------	------	----------------------------	------	-------------------	------

・避難状況の記録

61		・暗幕カーテンとマフラー (〇〇〇〇〇 体育館)	・〇〇〇〇〇〇〇〇に設けられた避難所では寒さをしのぐため、体育館の暗幕を使用して毛布代わりにしていた。	〇〇〇	〇〇〇	○
62	Photo	・救急受入患者名簿 (大野病院)	・3月12日早朝に大野病院にいた方々は、バスや救急車などで全員避難した。それまでの対応記録。	大熊町 (大野病院)	福島県	○ 展示条件確認
63		・残されたトリアージタグ (大野病院)	・県立大野病院で準備され、避難後そのままとなっていたトリアージタグ。トリアージとは運び込まれてきた患者の傷病の重篤度に応じ、診療の優先順位を決める緊急時の対応である。タグの緑から黒の部分は切り離し式になっており、患者の様子によって色を変えることができる。大野病院では地震発生を受けて大勢の患者が運び込まれることを想定し、受け入れ準備をしていた。	大熊町 (大野病院)	福島県	○
64		・石油ストーブとポリタンク (〇〇〇〇〇〇 〇〇 体育館)	・避難所となった体育館で暖をとるために使用された石油ストーブ。	〇〇〇	〇〇〇	○
65		・トイレのお願い 掲示ホワイトボード (〇〇〇〇〇〇 〇〇 体育館)	・〇〇〇の避難所は断水しトイレの水が流せなくなった。このため、避難所になっていた体育館まで、距離の離れたプールから水を運び、トイレで使用した。	〇〇〇	〇〇〇	○
66		・トイレを流すための水汲みバケツ (〇〇〇〇〇 体育館)		〇〇〇	〇〇〇	○
67		・残された毛布とパイプ椅子 (〇〇〇〇〇 体育館)	・避難所として使われていた学校は震災後9年を経過してもそのままの状態が残されていた。	〇〇〇	〇〇〇	○
68		・川内村に避難した方が黒板に残したメッセージ	・富岡町が川内村に避難し、さらに川内村から避難する時に富岡町の避難者が川内村コミュニティセンターの黒板に残したメッセージ。	川内村	川内村	○

No.	展示資料候補	資料名称	資料情報 ※展示キャプションについては別途精査	収集場所	所有者 (展示可否等確認先)	収集状況
69		・県避難者の記録 (北海道広域避難アシスト協会資料)	・福島県外に広く避難した被災者は避難先で情報交換などをするために組織を作ったり、避難先にあった何らかの組織が避難者支援組織となりました。この資料は北海道の事例を示している。	北海道	アシスト協会 (札幌市)	○

2-2 県内に広がる不安

「放射線という目に見えないものの脅威に初めて晒され、混乱した当時の状況や対応を、放射線の影響範囲や避難指示区域などの情報と共に伝える。また、未だ続く風評の始まりとして、原子力発電所事故により福島県が被った産業への影響の大きさを伝える。



・放射線の影響に関する資料

70		・マスク	・このマスクは塵など目に見えないサイズの放射性物質を体内に取り込むことを防ぐためのものである。もし、マスクをせずに体内に放射性物質が入ると、身体の外からではなく内側から放射線を浴びることになる。	大熊町 (旧原子力センター)	福島県	○
71		・防護服	・防護服は高線量域で服に付着した放射性物質を外部に持ち出すことを防ぐために使用し、スーツの表面は放射性物質が付きにくいように加工されている。	大熊町 (旧OFC)	内閣府	○
72		・避難所で配布された安定ヨウ素剤	・原発事故によって拡散した放射性物質が甲状腺に蓄積することを防ぐ目的で使用する。	○○○○	○○	○
73	Photo Photo Photo	・食品等スクリーニング検査結果通知書 (○○○)3種	・○○○に在住の方が、購入した食品や採取したものを、自治体の検査場所に持ち込み、放射線量を測った記録群。	○○○	○○	○
74		・生活空間における放射線量低減化対策手引き (平成23年8月以前)	県が放射性物質汚染対処特措法(平成23年8月30日公布)以前に有識者の意見等を参考に住民に対して線量低減化対策を示した手引書	—	除染対策課	○

2-3 国内外の反応と支援


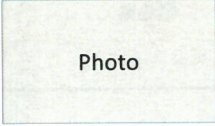
原子力発電所事故の発生に対する国内外からの反応について、海外の報道映像等を通して紹介する。さらに東日本大震災をきっかけに始まったクラウドファンディングやSNSを活用した支援など、これまでの大規模災害とは異なる取組を伝えるとともに、様々な支援に対する感謝を伝える。



・原子力発電所の事故発生を伝える海外の資料及び海外からの支援

75	Photo	・聯合報 (台湾3月13日)	・日本で起きた東日本大震災による一連の被害状況などは海外でも大きく報じられた。日本支援のきっかけとなるとともに風評被害ももたらした。	—	個人	○
76	Photo	・ザ・タイムズ(英国:3月14日)		—	個人	○

No.	展示資料候補	資料名称	資料情報 ※展示キャプションについては別途精査	収集場所	所有者 (展示可否等確認先)	収集状況
77		・ウクライナの子供たちからの励ましの絵画		福島県庁	福島県	○
78		・米国マサチューセッツ州の子供たちからの励ましの絵画	海外から福島県にさまざまな形で応援があった。そのうちの一例に励ましや応援のメッセージがある。これらの資料は世界各国から寄せられたメッセージの一部を示している。	福島県庁	福島県	○
79		・「大丈夫、ニッポン！」Tシャツ (ヨルダン)		福島県庁	福島県	○
・国内からの支援						
80		・寄せ書き	【メッセージ】 ・大じょうぶですか？私達もできるだけ、節電しています。いつかは幸せなくらしができるようになります。あきらめないでください。(個人名)	兵庫県	福島県	○
81		・折り鶴	【メッセージ】 わたしたちは・・・復興の様子を見つめてきました。わたしたちにも何かできることはないか・・・千羽折ると願いがかなうと言われ・・・このつるがみなさんに、希望を届けてくれると信じています。	広島県	福島県	○
82		・白布に描かれた寄せ書き	【メッセージ】 ・負けないで！！ ・少しでも早く復興して、みんな笑顔で・・・ ・福島を、ずっと守ります。痛みを共にわかちあい助けあい、生きていきます。遠い京の地から福島をおもっています。	京都府	福島県	○
83		・寄せ書き	【メッセージ】 ・被災されたみなさんへ 震災から7カ月がたちました。私たちは早く復興してほしい思いで文化祭では地震が起きてから復興までの様子の劇をしました。	岡山県	福島県	○
84		・王寺町災害用備蓄毛布(支援品)	・○○○○○○○○○で収集した救援物資。この資料は災害時用の毛布で、銀色の袋に圧縮されて入れられた毛布が入っている。○○○には全国各地の自治体から救援物資が寄せられたいた。	○○○	○○○	○

No.	展示資料候補	資料名称	資料情報 ※展示キャプションについては別途精査	収集場所	所有者 (展示可否等確認先)	収集状況
85		・各種の支援物資 (衛生用品、防虫駆除剤、歯ブラシ等)	〇〇〇〇〇〇〇〇〇で収集した救援物資内容は衛生用品、歯ブラシ、防虫駆除剤など多岐にわたる。また「紳士パンツ肌着」が福島県から提供されており、ほとんど何も持たずに避難した人が一定数いることがわかる。民間からの提供資料をみると、例えば「琉球マフヤー」の文字がみえ、救援物資の提供元が全国幅広いことがわかる。	〇〇〇	〇〇〇	○
86		・民間からの支援物資 (吸水土嚢)	・民間から寄せられた支援物資の一つである。中身は給水土嚢で箱には「緊急寄贈」の文字が見える。	〇〇〇〇〇 〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇〇	○

3 県民の想い

3-1 災害時に感じた不安・恐れ

東日本大震災が起きた瞬間、そして原子力発電所事故の発生を知った瞬間、それまで平穏に暮らしていた人々の心によぎった様々な想い。ここでは、震災・事故の瞬間を捉えた記録や痕跡とともに、災害発生時の状況や、災害・事故発生時に人々が感じた恐れや不安について来館者と共有する。



No.	展示資料候補	資料名称	資料情報 ※展示キャプションについては別途精査	収集場所	所有者 (展示可否等確認先)	収集状況
・災害時の様子が伝わる資料						
87		・津波により漂着した腕時計	・水が入った痕跡が残る腕時計。津波で流され、伝承館近くで発見された。	〇〇〇	〇〇〇	○
88		・津波により漂着したランドセル	・津波で流され、後に発見されたランドセル。失われた学校生活をうかがわせる。	〇〇〇	〇〇〇	○
89		・津波により漂着したカメラ	・津波で流され、伝承館近くで発見されたフィルムカメラ。	〇〇〇	〇〇〇	○
90		・津波により漂着したぬいぐるみ	・津波で流され、伝承館近くで発見されたぬいぐるみ。	〇〇〇	〇〇〇	○
91		・津波被災ガードレール支柱	・3・11、地震直後に双葉町を襲った津波によって破壊されたガードレール支柱。想定を超える津波の威力を実感できる資料。	双葉町	双葉町	○
92		・双葉消防本部防火衣	・1F2F構内冷却支援・消化活動に加わった際に、双葉消防本部隊員着用の防火衣上下。	楡葉町	双葉消防本部	○

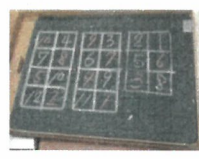


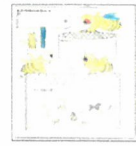
No.	展示資料候補	資料名称	資料情報 ※展示キャプションについては別途精査	収集場所	所有者 (展示可否等確認先)	収集状況
93		・双葉消防本部 隊員が着用した 装備ヘルメット	・3月16日出動時の装備ヘルメット1F4号 機火災出動時に隊員が着用したヘルメッ ト	楢葉町	双葉消防本部	○
94		・ヘルメット		楢葉町	双葉消防本部	○
95		・ヘルメット(防火 用しころ付き)	・双葉消防本部で、震災直後の消防活動 等で使用されたヘルメットとはじめてとする 装備品。	楢葉町	双葉消防本部	○
96		・ベルト(防火用)		楢葉町	双葉消防本部	○
97		・作業用ロープ (防火用)		楢葉町	双葉消防本部	○

3-2楽しかった学校生活と突然の別れ

家族、先生、地域の人々、そして友達に囲まれながら送っていた学校生活。しかし、事故発生により、そんな楽しかった学校生活も失われてしまった。ここでは事故前の子どもたちの学校生活の思い出や、その後の別れや友人達への想いなどを来館者と共有する。



・楽しかった学校生活や避難等による別れに係る当時の想い分かる実物資料

98		・新学期席替え 表	〇〇〇小学校4年2組教室内。2011年3 月11日時点に貼られていた席替えを示 すと思われる貼り付け式の黒板。 ※教室全体の様子が分かる写真と合わ せて展示予定。	〇〇〇〇	〇〇〇	○
99		・「さつまいも新 聞」		〇〇〇〇	〇〇〇	○
100		・「生き物☆新 聞」	・震災後7年経過しても教室の中がその ままにされていた〇〇〇〇〇〇〇〇に 残されていた資料。子どもたちの活 き活きとした学校生活が垣間見え る。反面、時が止まり、それまでの 平和な学校生活が突然失われたこと を伝えている。	〇〇〇〇	〇〇〇	○
101		・「アルバム係の 計画表」 〇〇〇〇		〇〇〇〇	〇〇〇	○

No.	展示資料候補	資料名称	資料情報 ※展示キャプションについては別途精査	収集場所	所有者 (展示可否等確認先)	収集状況
102		・1年A組時間割 (平成22年度)	・被災当時は平成22年度(2010年度末)であった。間もなく年度が変わり、子どもたちは進級・進学・就職等する予定であった。時間割や予定表は震災によって狂わされてしまった子どもたちの「時間」がみえる。	富岡高校	福島県	○
103		・富岡高校年間予定表(平成22年度)		富岡高校	福島県	○
104		・3年A組生徒のメッセージ	・中央部に「3A卒業」の文字があり、縁部には学校生活の思い出となる写真が貼られている。間もなく卒業という高校3年生の未来への期待と学校を去るさみしさが読める。しかし、震災によって子どもたちの状況は大きく変化した。	富岡高校	福島県	○
105		・残されていた生徒作品ダンボール箱	・富岡高校の美術室に残されていた生徒の作品で学校生活がうかがわれる。これらの作品は制作した生徒の手に渡ることなく、震災後そのままの状態で放置されていた。何の予告もなく、突然の震災に襲われたことが分かる。	富岡高校	福島県	○
106		・作り掛けの生徒作品(キャンドルカービング)		富岡高校	福島県	○
107		・ネックウォーマー、手袋、折畳傘(○○○○)	・東日本大震災の発災時は3月上旬でまだまだ寒い気候条件であった。小学校の児童が使っていたであろう防寒具が校舎内にそのまま残されており、これらの資料は突然の避難をよく表している。	○○○○	○○○	○
108		・ランドセル(○○○○)	・小学校の校舎内に残されていたランドセル。避難する時に置いたままになった可能性がある。いずれにしても突然の災害に襲われ、急に避難したことがわかる。	○○○○	○○○	○



3-3家族との思い出や地域生活と別れ

地域の人々は伝統的な風習や歴史・文化を協力して守ってきた。ここではそれらの記録とともに、事故を機に離ればなれになってしまった故郷の人々への想い等を来館者と共有する。



・家族や地域生活との思い出、別れを示す資料

109	Photo	・○○○○○/田植え踊り、早乙女着物(○○○○○)	・○○田植踊: ○○○○○地区、○○○○○○○○の例祭○○○の日に、海上安全・豊漁・豊作を祈って○○小学校四～六年生の女子児童が奉納。(境内および○○○で行われる。) ・東日本大震災により社殿、踊りの衣装、道具なども全て流出したが、2011年8月アクアマリンふくしまで行われたイベントで、震災後初披露。以後継続的に様々なイベントや仮設住宅などで披露してきた。この衣装一式はその際に○○の子が着用していたもの。	○○○	○○	○
-----	-------	---------------------------	--	-----	----	---


No.	展示資料候補	資料名称	資料情報 ※展示キャプションについては別途精査	収集場所	所有者 (展示可否等確認先)	収集状況
110		・野生動物に荒らされた襖・畳 (〇〇〇)	・長期避難していたため、野生動物に荒らされた被災地の家屋は多い。イノシシの被害に遭ったこの家では、襖が傷つけられたり泥が塗られたり被害の他に、犬食用に保管していた缶詰の蓋が開けられ、中の餌が食べられていた。	〇〇〇	〇〇	〇
111		・野生動物に開けられた缶詰 (〇〇〇)		〇〇〇	〇〇	〇

3-4生活基盤の喪失と将来への不安

原子力発電所事故は、福島県内の経済・産業へ深刻な影響を及ぼし、人々の生活基盤を揺るがした。また住み慣れた故郷を後に別の場所で生活を送り始めた人々もいる。ここではそれぞれの想いについて来館者と共有する。



・生活基盤の変化や将来への不安を感じさせるきっかけとなった資料

112		・農作物出荷制限を伝えるチラシ	・放射性物質によって汚染が広がった地域では農作物や自然にある山菜などを食べるができなくなった。このことで生活基盤を失い、被災者は将来への不安を抱えた。これらの資料はそうした中でだされたもので、当時の様子をよく表している。			〇
113	Photo	・食品検査票 (布袋シメジ)	・野菜や山菜等の放射線量を計測することができ、個人で収穫した食物の安全対策が講じられた。	〇〇〇	〇〇	〇
114	Photo	・警戒区域内家畜安楽死措置実施証明書	・福島第一原発から20km圏内で飼育されていた家畜に対し、放射線による汚染が懸念されたため、殺処分とされた。	〇〇〇	〇〇	〇



4 長期化する原子力災害の影響

4-1除染

原子力発電所事故後、住民を放射線から守るため、どのように除染が行われてきたのか、また避難指示解除に向け、帰還困難区域で現在進められている除染の状況について紹介する。



・除染関連資料

No.	展示資料候補	資料名称	資料情報 ※展示キャプションについては別途精査	収集場所	所有者 (展示可否等確認先)	収集状況
115		・除染ボランティア用作業着類 (ビブス他)		福島県	福島県	〇
116		・タイベックスーツ	・道路等の除染をする中で使用していた作業者の衣類。ボランティアが着用していた緑色のビブスのほか、タイベックスーツ、軍手がみられる。	福島県	福島県	〇


No.	展示資料候補	資料名称	資料情報 ※展示キャプションについては別途精査	収集場所	所有者 (展示可否等確認先)	収集状況
117		・鉛のバケツ (高線量物用)	・通常のバケツと異なり、内部が鉛で覆われている。この上に鉛のフタをかぶせ、さらにバケツのフタをする。内容物が鉛で覆われる構造から、やや高線量のものを保管していたと思われる。	福島県	福島県	○
118		・除染作業用に使用した道具	除染作業に使用した高圧洗浄機。放射性物質は塵や埃の形をとるため、舗装面やベランダなどの除染には水を用いた高圧洗浄が有効である。なお、洗浄に使用した水には放射性物質が含まれるため、流した水は回収した。	福島県	福島県	○
119		・フレコンバッグ	正式名はフレキシブルコンテナバッグ。「フレコンバッグ」はナショナルマリンプラスチック社の登録商標であるが通称として使用されることも多い。福島でおきた原子力発電所事故では、除染物質(土・枝・ガレキなど多種多様)を入れて保管に使用している。フレコンバッグで仮置き場におかれた除染物は中間処分場に運ばれ、そこで破袋して中身を一時保管する。			○
120		・線量計(職員が使用していたもの)	高線量が想定される場所で作業者の健康管理を目的に使用する線量計である。線量計には計測時にその場の即時的な線量を計測するものと、計測中の線量を全て合わせた数字を計測するものがある。後者を積算線量計と呼ぶ。この積算線量計は作業者の被曝量を計測するためのもので、単位はマイクロシーベルトである。	福島県	福島県	○
121		・除染作業中看板 ・帰還困難区域入口看板(写真)	・これらの看板やのぼり旗は除染作業をしている現場を通過する車に除染作業中であることを示し、安全に通行することを促すためのもの。また、帰還困難区域の入口には写真の看板が置かれている。	購入	—	○
122		・除染作業中のぼり		購入	—	○
123		・放射線・除染講習会テキスト(平成24年3月)	・県が除染従事者を対象とした講習会で使用したテキスト。	—	除染対策課	○
124		・放射線・除染講習会テキスト(平成24年3月)	・県が自治体や関係機関等に配布したハンドブック。	—	除染対策課	○

4-2風評の払拭

原子力発電所が産業に与えた影響とともに、県内で実施されてきた風評払拭の取組を紹介する。



・風評の払拭に関係した実物資料

125		数年分の山菜検査蓄積書類	・個人が食品等の放射線量を測定できる検査場を設けている自治体もある。資料は〇〇〇在住の方が購入した食品や採取物の放射線量を測った記録。	〇〇〇	〇〇	○
-----	---	--------------	---	-----	----	---



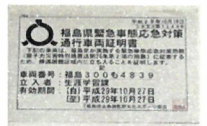
No.	展示資料候補	資料名称	資料情報 ※展示キャプションについては別途精査	収集場所	所有者 (展示可否等確認先)	収集状況
126		・ふたばぐるぐるMAP 5種	・この地図は通ることのできる主要道路や再開・開業した商業施設などをコンパクトに紹介している。変化の激しい被災地の状況を正確に伝えるため、1年間に数回作り直しをしている。	福島大学つくしまふくしま未来支援センター	福島大学つくしまふくしま未来支援センター	○
127		・ふくしままっぷ	写真を一切使用せず、大人にも子どもにも親しみやすい手書きのイラストと文章で作成されている。この「ふくしままっぷ」は、折りたたみ形式にしており、最初に開くと、福島県の場所や県民の歌など、基礎情報を見ることができる。	福島県庁	福島県広報課発行	○
128		・県他風評風化対策事業チラシ (スタディツアー) など	原子力災害は福島県外では風評となって大きな被害をもたらした。その風評を払拭するためにさまざまな取り組みが行われた。	福島県庁	福島県広報課発行	○
129	Photo	・宿泊キャンセル状況記録 (〇〇〇〇データ)	〇〇〇〇の入り込み客数を示す資料。震災前もゆるやかな減少傾向が認められる。東日本大震災発災時に極端に入り込み客数が減少し、その後はなかなか回復しない様子がわかる。	〇〇〇	〇〇〇〇	○
130		・『食と放射能に関する説明会』 (福島県)	・食と放射能・放射線に関する不安に対する専門家からの説明を聞く機会が設けられた。放射線に対する正しい知識を広め、風評払拭に繋げる取組の1つ。	福島県	福島県	○

4-3長期避難への対応

長期避難がもたらす問題は、住居、子育て、コミュニティ形成など複合的で、解決は容易でない。長期避難による諸問題を明らかにするとともに、その解決のため現在進められている取組を紹介し、これから何ができるかを考えることにつなげる。



・長期避難に関係した実物資料

131		・仮設住宅団地案内看板 (白河市)	この看板は双葉町民が避難していた白河市郭内応急仮設住宅向けに設置されていた。	白河市	福島県	○
132		福島県が「帰還支援アプリ」の提供を始めましたチラシ	・原子力発電所事故により長期広域避難となったため、避難者の帰還にはさまざまな取り組みがなされた。この資料はその取り組みのうちのひとつ。	福島県庁	情報政策課作成	○
133		・福島県緊急事態応急対策通行車両証明書 (福島県)	通行証は、帰還困難区域に立ち入る際に、県あるいは立ち入る自治体より発行してもらうもので、元の住民が避難先から訪れる場合をはじめ、震災の被害調査などの際にも使用される。	福島県	福島県	○

No.	展示資料候補	資料名称	資料情報 ※展示キャプションについては別途精査	収集場所	所有者 (展示可否等確認先)	収集状況
134		・緊急事態応急 対策車両通行許 可証 (〇〇〇)	通行証は、帰還困難区域に立ち入る際 に、県あるいは立ち入る自治体より発行 してもらうもので、元の住民が避難先から 訪れる場合をはじめ、震災の被害調査な どの際にも使用される。	〇〇〇	〇〇〇	○
135		・公益一時立入 車両通行許可証 (〇〇〇)	通行証は、帰還困難区域に立ち入る際 に、県あるいは立ち入る自治体より発行 してもらうもので、元の住民が避難先から 訪れる場合をはじめ、震災の被害調査な どの際にも使用される。	〇〇〇	〇〇〇	○
136	 	・〇〇〇臨時通 行証 2種	これは、〇〇〇長より交付された通行 証。8月14日～16日、9月19日～22日の 二度の立ち入り期間のものであり、お盆 と秋の彼岸の時期である。墓参りが、避 難者と故郷を繋ぐ機会となっていること が分かる。	〇〇〇	〇〇	○
137		・罹災証明書	・自然災害による住家(居住のために 使っている建物)の被害程度を証明する もの	〇〇〇〇	〇〇	○
138		・被災証明書 ※原子力発電所 事故による)	・原子力災害により罹災したことを証明し ている。	〇〇〇	〇〇	○
139		・ふるさと帰還通 行カード	・被災者が避難先を初めとして広域に移 動する際、高速道路の通行料金を免除 する措置がとられた。長期広域避難の一 側面を示している。	〇〇〇	〇〇	内諾済
140		・災害復興住宅 融資のお知らせ (H26、05、26)	・被災した住宅を復旧するための融資に 関するお知らせ。	葛尾村 三春出張所	FURE	○
141		・東日本大震災 応急仮設住宅入 居の手引書 (楢葉町)	・社団法人プレハブ建築協会作成の手引 書	楢葉町	楢葉町	○
142		・『生活再建の手 引き』福島県災 害対策本部 ・『生活再建ハン ドブック』政府広 報	・東日本大震災を原子力発電所事故によ る災害まで含む、生活再建に関する手引 き書である。 ・平成23年5月12日に発行された、東日 本大震災の被害者生活再建支援の補正 予算内容の案内。	—	福島県	○
143		・避難生活中に 書かれた日記	・長期にわたる避難生活での出来事や避 難生活への想いなどを書き綴った個人の 日記。	〇〇〇	〇〇	○

No.	展示資料候補	資料名称	資料情報 ※展示キャプションについては別途精査	収集場所	所有者 (展示可否等確認先)	収集状況
-----	--------	------	----------------------------	------	-------------------	------

4-4健康に関する取り組み

原子力発電所事故由来の放射線による健康への影響は、現時点で確認されていないが、震災後、県民の健康状態を把握し、健康維持、増進を図るために実施されている様々な取組について紹介する。



・健康不安への対応に関係した資料

144		<p>「県民健康調査基本調査問診票」について</p>	<p>東京電力第一原子力発電所事故により放射性物質が拡散されたことから、事故直後から4か月間の中で空間線量が最も高かった時期における外部被ばく線量を評価し、各個人に線量を把握していただくために行う調査である。</p>	〇〇〇	〇〇	○
145		<p>・子供用ガラスバッジ</p>	<p>原子力発電所事故後、県内の児童生徒の積算外部被曝線量を測定するために用いられている線量計である。</p>	川俣町	個人	○

4-5研修・ワークショップ

防災・減災に関する学習やワークショップ、研修が実施できるスペース。様々な資料、機器、装置を活用したデモや検査などの体験を予定。



・研修・ワークショップに関係した実物資料

146	<p>3点</p>	<p>・線量計</p>	<p>写真左から、GM管式サーベイメータ、シンチレーション式サーベイメータ、電離箱式サーベイメータである。それぞれ放射線の測定原理が異なり、したがって測定感度にも違いがある。</p>	福島県 (旧原子力センター)	福島県	○
147	<p>3点</p>	<p>・モニタリング機器</p>	<p>左はモニタリングポスト(空間線量測定)の検出器部分である。実際には検出器に監視盤が接続される。原子力発電所事故後、この簡易版が各地に置かれた。一番右のものはゲルマニウム半導体検出器と呼ばれるものである。下のタンク部分に液体窒素を入れ、タンク上部の検出器を冷却する。また、検出器にはパソコンやプリンターが接続される。この検出器はサンプルから放出される放射線の数を計数するほかに、放射性核種の種類を判別する。 ※測定用ではなく、展示品として活用予定</p>	福島県 (旧原子力センター)	福島県	○
148		<p>・除去土壌等の保管に関する住民説明用模型キット</p>	<p>福島県と住民とが除染物の危険性や取り扱いの方針などを共有する説明会で使われた。ミニチュアのセットは緑色のゴムシート、黒い除染物質のフレコン、肌色の遮蔽土嚢から構成され、実際にどのように仮置き場に除染物を置くのかを説明することができる。</p>	福島県	福島県	○

